

件名 ; 2016年度 カヌースラローム、カヌーワイルドウォーター競技 主要大会の競技方式について

2016年度の主要大会の運営方針を下記の通り連絡します。

1 全般

競技規則は2015年度改定版を適用する。

2 カヌースラローム競技

① 試合方式他

- a. ノンストップトレーニングを行わず、フォアランは行うものとする。
- b. ジャパンカップは全てA、B決勝方式(詳細は別紙参照)とする。
- c. 日本選手権、NHK杯はジャパンカップ第1戦(4/2日)を予選会とし、4/3日の準決勝、決勝は各々1本の漕航とする。
- d. 岩手国体、同ブロック大会は従来通り2漕1採とする。
- e. 2017年度のCSL日本選手権、NHK杯の準決勝へのシード選手は2016年度のナショナルチームメンバーに加え、2016年度のジャパンカップの最終ランキングで下記の選手数とする。

ア 男子K-1	上位10名
イ 女子K-1	上位7名
ウ 男子C-1	上位2名

エ 男子C-2、女子C-1については別途定める。
- f. 第9回アジアカヌースラローム選手権大会、リオオリンピックアジア地区最終選考会については国際カヌー連盟規定により行う。

② ジャパンカップのランキング取得条件

- a. 2016年度のジャパンカップ7試合(富山、岡山、福島、青森、山口、岐阜、東京)の内最終戦(東京)を含め4試合以上成立した大会に出場(発艇)すること。
- b. 最終戦に出場し、その得点と残りの上位2戦の合計3試合で、ランキングをつける。ランキングの付かない選手も最終ポイントに基づき次年度の発艇順位をつける。
尚ジャパンカップの発艇順はN.T.(A,Bチーム)、U23、JrのN.T.、ジャパンカップのランキングを考慮して決める。

3 カヌーワイルドウォーター競技

① スプリント競技は2013年競技規則改正に伴い、2漕1採方式とする。

② 種目

- | | |
|-----------------|----------------------|
| a. 第1戦-岡山はクラシック | d. 第4戦-山口はスプリント |
| b. 第2戦-福島はクラシック | e. 第5戦-岐阜はクラシック |
| c. 第3戦-青森はスプリント | f. 最終戦(第6戦)-東京はスプリント |

③ ジャパンカップのランキング取得条件

- a. 2016年度の6試合の内最終戦を含め3試合以上に出場(発艇)する事。
- b. 最終戦に出場し、その得点と残りの上位2戦の合計3試合で、ランキングをつける。ランキングの付かない選手も最終ポイントに基づき次年度の発艇順位をつける。
尚ジャパンカップの発艇順はN.T.、ジャパンカップのランキングを考慮して決める。

4 その他

- ① **Japan-Cup、国体のカヌースラロームの競技運営要領を一部変更する。変更点は添付資料による。特にスラロームでは前検定は自己検査とし、試合後の検定(後検艇)のみとする。(各監督は事前確認を十分行うよう指導の事)**
- ② カヌースラローム、カヌーワイルドウォーター競技のN.TのJapan-Cupにおける参加料の免除については添付資料による。
- ③ 普及、強化の観点からジャパンカップのスラローム競技においては2種目以上(例; SLのC-1とK-1に出る場合等)に参加する場合、2種目以降の参加料を半額とする。
- ④ 型式認定済の新艇公認(検定)は事前申請を行い、連盟開催の大会時に希望する場合は大会開始前の指定された時間に行う。
- ⑤ 大会期間中コース内での練習は指定時間以外は禁止する。
- ⑥ 国体における用具の商標、標識については所属都道府県名及び製造販売業者のもの以外は認めない。
- ⑦ H29年愛媛国体よりスラローム競技にカナディアン種目が追加になる。詳細は別途資料による。

以上

H28年度以降のカヌースラローム・ワイルドウォーター－競技

Japan-Cupにおける運営要領の変更について

平成28年1月22日

1 まえがき

Japan-Cupの運営要領を一部下記の通り変更する。

日本カヌー連盟 SW競技運営部

2 変更内容

変更項目	適用	変更内容	備考
1 試合検定 各選手、Team-leaderは今回の変更内容を十分理解し対応の事。(従来の事前検査方式では規定値に足りなくても、検定時間内に対	SL競技のみ適用。WWについては従来通りの前検定を行う。	<ol style="list-style-type: none"> 1 これまで遣ってきた試合前検定は自主検査とし、試合後の検定（後検）で合否を判定する 2 後検は予選、B決勝ではランダムに、A決勝では全艇検査を行う 3 注意事項 <ol style="list-style-type: none"> a. 前検の自主検査用に従来の検定時間帯（試合当日の朝も必要）に検査器具が使える様にする事 b. 後検で不合格ならDSQR（例；試合中に岩と衝突し後検で寸法不足した場合もDSQR） 	<p>ランダムの規定をSW委員会が定める</p> <p>秤は公認期限内で有る事</p> <p>秤は自主検査用と後検様は同じものを使用の事</p> <p>測定計器の検定用に基準重り(3--5kg)を準備する。</p>
2 発艇台での艇の保持	SL,WWに適用	発艇場所で選手が自分で艇が保持できる環境下では補助員を配置する必要はない	富山ではスタート地点にパイプ一本打ち込んでセルフ保持の予定。岡山、山口は現状通りであれば保持員を配備の事
3 発艇における事前確認の取止め	SL競技のみに適用	後検のみとなった事より、従来行ってきた 発艇前のライフジャケット、検定シール等の事前確認は行わない。尚新艇の公認、及び更新検定は従来通り、大会検定の前にも必要に応じ行う。	大会シールは前検合格で発行しているが、今後はスラロームについては不要
4 ジャッジシステムについて	SL競技のみに適用	新方式はレベルの高い審判員、連盟派遣役員が必要な事より基本的には従来通りとするが開催地が希望すれば新方式採用可とする	
5 デモンストレーションの定義	SL競技のみに適用	ICFルールではデモとしてFull Run、Partial Runの2種類が規定されている。世界ではPartial Runはゲート設定時にデモが入り見せる。公式デモはFull-Run 日本ではFull-Runに対応するデモの人数確保が難しいので従来通りPartialを公式デモとする	
6 Start,Finishの表示	SL,WWに適用	従来横断幕で表示していたが、選手が川岸でその位置が確認できる表示板でも良い事とする	
7 NTのEntry費免除	SL,WWに適用	H27年7月に発行した添付資料により運用する	

H28年度以降のカヌースラローム・ワイルドウォーター－競技 国体における運営要領の変更について

平成28年1月22日

日本カヌー連盟 SW競技運営部

1 まえがき

H29年度-愛媛国体以降の運営要領を一部下記の通り変更する。H28年度実施の岩手国体は既にリハーサルを終えており、これまで通りの運用を原則とする。

2 変更内容

変更項目	適用	変更内容	備考
1 試合検定 各選手、Team-leaderは今回の変更内容を十分理解し対応の事。(従来の事前検査方式では規定値に足りなくても、検定時間内に対応が出来ていた！)	SL競技のみ適用。WWについては従来通りの前検定を行う。	1 これまで遣ってきた試合前検定は自主検査とし、試合後の検定（後検）で合否を判定する 2 後検は2漕とも全艇検査を行う 3 注意事項 a. 前検の自主検査用に従来の検定時間帯（試合当日の朝も必要）に検査器具が使える様にする事 b. 後検で不合格ならDSQR（例；試合中に岩と衝突し後検で寸法不足した場合もDSQR）	2漕1採方式であり、全艇検査とする。 秤は公認期限内で有る事 秤は自主検査用と後検様は同じものを使用の事 測定計器の検定用に基準重り(3--5kg)を準備する。
2 発艇台での艇の保持	SL,WWに適用	発艇場所で選手が自分で艇が保持できる環境下では補助員を配置する必要はない	連盟役員と相談の事
3 発艇における事前確認の取止め	SL競技のみに適用	後検定のみとなった事より、従来行ってきた 発艇前のライフジャケット、検定シール等の事前確認は行わない。尚新艇の公認、及び更新検定は従来通り、大会検定の前にも必要に応じ行う。	大会シールは前検合格で発行しているが、今後はスラロームについては不要
4 ジャッジシステムについて	SL競技のみに適用	これまでどおりの審判配置とする	新方式はレベルの高い審判員、連盟派遣役員がより多く必要な事より従来通りとする
5 デモンストレーションの定義	SL競技のみに適用	ICFルールではデモとしてFull Run、Partial Runの2種類が規定されている。世界ではPartial Runはゲート設定時にデモが入り見せる。公式デモはFull-Run 国体ではICFに合わせ公式デモはFull-Runとする。	
6 Start,Finishの表示	SL,WWに適用	従来横断幕で表示していたが、選手が川岸でその位置が確認できる表示板でも良い事とする	
7 失点集計	SL競技のみに適用	従来PDAを使っていたが、通信の安定性を考慮しインカム方式にする。	

**件名 ; カヌースラローム、カヌーワイルドウォーター競技
ジャパンカップにおけるナショナルチーム(NT)の選手
の参加費免除について**

平成27年6月25日

公益社団法人 日本カヌー連盟
競技運営部SW委員会

主題について下記のとおり定める。

1 趣旨

ジャパンカップに広くNTの選手に参加してもらい、その高い技術を一般参加選手に見てもらい、同じ大会で競う事により、カヌースラローム、カヌーワイルドウォーター競技の技術力の向上強化を図るために行なう。

NTの選手はこの趣旨に沿って大会に参加し、一般選手の模範となる競技を行なう事。

2 免除対象

開催地の費用負担も考え下記の範囲とする。

- ① カヌースラローム、カヌーワイルドウォーターのシニア、U23、ジュニアのA-チームの選手のその種目に対する参加費を免除する。
- ② 対象期間は前年度に正式にHPで当年度のNTに公表された選手は当年度4月以降、その年度内の大会に適用する。但し現状の大会日程、選考方法において当年度に選抜されるNTについてはスラロームについては5月以降、ワイルドウォーターについては6月以降のその年度内に開催される大会を対象とする。

注) 対象期間についてはNTに正式決定(HP掲載)後が望ましいが、現状各エントリーの締め切りとNTの正式決定のタイミングの関係で選手の申し込み、開催地の対応に混乱を起こしているため、現状NT選考要項でNTが確実に決まる時期を考慮して上記とした。NTの選考基準が変わった場合は必要に応じ見直しをする。

3 適用

2015年度の7月以降開催のジャパンカップから適用する。

4 細則

- ① ライフジャケットの点検費用もこの規定に該当する場合は免除する。
- ② NTの参加費免除はNTのその種目に限るが、NTになっている種目以外に参加する(2種目参加規程の解釈)場合はそれを1種目めと解釈し半額の適用対象とはならない。更にもう1種目以上参加する(合計3種目以上)場合は半額の対象とする。

以上

ジャパンカップ試合方式 (案)

平成27年1月5日
公益社団法人
日本カヌー連盟

競技運営部SW委員会

1 変更の主旨

これまでジャパンカップは「2漕1採方式」で実施されてきたが、選手強化（1漕に掛ける集中力の強化)の為2015年度のジャパンカップは下記に示す「A、B決勝方式」に変更する。

2 試合運営

- a. 1漕目は全員参加による漕航とする。その発艇順番は前年度のランキングの逆順を原則とする。
- b. 1漕目の成績の上位者で下記に示す艇数をA決勝への選出数とする。

男子	K-1	10 艇
女子	K-1	5 艇
男子	C-1	5 艇
女子	C-1	3 艇
男子	C-2	3 艇

- c. 1漕目で同一記録となった場合は、同着として処理するが、その場合A決勝に進む艇数が増える可能性がある。同着の場合の発艇順は1漕目の発艇順による。
- d. 2漕目はB決勝、A決勝の順で試合を行なう。夫々の発艇順は夫々の1漕目の成績の逆順とする。
- e. 2漕目の成績に基づき順位が付けられる。この時1漕目の成績は考慮されないが、2漕目で同着が出た場合は1漕目の成績の良いほうを上位者とする。
- f. 総合成績はA決勝の最下位の選手のあとにB決勝のトップの選手が続く事で順位付けされる。2漕目でB決勝の上位者がA決勝の下位者の成績を上回っても、B決勝の選手の順位はA決勝の選手のものを上回ることはない。
- g. A決勝でDNS,DSQ-R,DSQ-Cの選手が出た場合はB決勝の選手を繰り上げて順位付けを行なう。
- h. A,B決勝でDNS,DSQ-R,DSQ-Cの選手が出た場合は順位が付かない。
- h. ランキングはA,B決勝の総合成績により従来通り計算される。

以上